

平成30年度 入学試験問題

(21世紀型特色)

筆記試験

(40分)

[注意事項]

-
- ※試験開始の合図があるまで、注意事項をよく読んでおきなさい。
 - ※試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
 - ※解答用紙は、この問題冊子の間に1枚はさんであります。
 - ※問題冊子は、P1からP3まであります。
 - ※記述解答において、句読点は1字として扱います。
 - ※解答は、1文字空けずに文頭から書き始めること。
-

西大和学園中学校

二

もし「タイムマシン」があれば、あなたは「どの国」「どの時代」に行きたいですか。その行き先とその行き先をあなたが選んだ理由・目的などを明らかにしながら、一五〇字以内で答えなさい。ただし、文章は複数の文に分けて書いてよいものとします。

○解答作成にあたっては、以下の条件を満たしなさい。

(条件1) 行くことができる時代は「未来」あるいは「過去」のどちらでもよいものとします。

(条件2) あなたが、その国・その時代に何か物を残したり、あなた自身が残ったりすることはできないものとします。

(条件3) あなたが、その国・その時代から何か物を持ち帰ったり、誰かを連れて帰ったりすることはできないものとします。

(条件4) 時代・国名・人物名を挙げる時は、具体的な名称を用いなさい。

問題は次のページから始まります。

一 以下の文章は、2017年10月27日に東洋経済ONLINEに掲載された記事です。以下の文章を読んであとの問いに答えなさい。出題において、一部表現を改めた部分があります。

2020年代半ばには人口で中国を抜き、世界トップになる見込みのインド。自動車市場としても世界から熱い視線が注がれている。トヨタやスズキなど日本メーカーはハイブリッド車(HV)を投入しようとしていたが、インドでも電気自動車(EV)シフトが進み、雲行きが怪しくなっている。日本メーカーは日本政府を巻き込んでHVへの理解をインド政府に求めているが、その成算はあるのだろうか。

インドがEVに大きく舵を切り始めたのは今年5月末のこと。「2030年までにガソリン車、ディーゼル車の販売を禁止し、EVのみにする」という方針をインド政府の関係機関が明らかにしたのだ。日本の経済産業省は「政府の関係機関がEVに限るという方針を示したもので、必ずしも政府が決定したわけではない」と受け止めているが、HVを飛び越して、EVへシフトする可能性が出てきた。それまでは2013年に発表された「国家電気自動車ミッション計画2020」に基づき、2020年までにEVとHVの合計で年間販売台数を600万〜700万台規模に拡大する計画だった。それが今年に入ってEVとHVを両にらみで普及させる方針に変化が生じつつあるのだ。

そうした動きに追い打ちをかけたのがインド国内の税制改革だ。インド政府は2017年7月、物品やサービスにかかる税制を統一・簡素化し、物品・サービス税を導入した。自動車の場合、標準税率は28%となった。ところがプリウスやアコードハイブリッドなどの税率は43%(プリウスなどはインド国内では大型車に分類され、導入前は30%)となった。

一方、EVは12%(導入前は23.3%)に低く抑えられた。HVにかかる税はEVの税率に比べ30ポイント以上上回るようになった。税込み価格で見ると、本体価格が同じでもHVがEVよりも3割ほど高くなる。インド政府はEV購入に税制上のインセンティブを与え、EV普及に弾みをつけようとしているのだ。

それに冷や汗をかいているのが日本の自動車メーカーだ。2016年にトヨタ自動車やホンダがアコードハイブリッドをそれぞれ投入。スズキも鉛蓄電池を搭載したマイルドHV(モーターだけでは走行できないハイブリッド車)をすでに販売しており、2020年をメドにリチウムイオン電池を使ったHVを市場投入する計画だ。今のところ日本勢はインド市場ではHVを優先させる戦略だったにもかかわらず、インド政府の急な方針転換に泡を食っているのだ。

【語注】

注1 インセンティブ … 優遇制度のこと。

問 —— 部「2030年までにガソリン車、ディーゼル車の販売を禁止し、EVのみにする」とありますが、インドはなぜ「EV」を推進するようになったと考えられますか。その理由を自分で考えて80字以上100字以内で答えなさい。ただし、文章は複数の文に分けて書いてよいものとします。

